



みどりのきずな

平成23年3月15日発行 第14号

【緑区地域福祉計画 基本理念】

『区民一人一人が手を結びあい、
心あたたまる地域の活性化をめざし、
住みよいまちを創造していく』

編集：緑区地域福祉計画推進協議会広報部会
発行：緑区地域福祉計画推進協議会事務局
(緑保健福祉センター 高齢障害支援課内)
千葉市緑区鎌取町226番地1
TEL 043-292-8142 FAX 043-292-8276

「完は序なり」第一期地域福祉計画の推進に向けて――思い遣り・
気遣い・人の心遣いを感じて

委員長 岡本博幸

「完は序なり」この言葉は確かに、
劇作家シェイクスピアが言った言葉だたと思います。演劇が完結したとき、それは終わりではなくそこから新しい世界の一歩が始まるというあくなき探求精神が込められた言葉です。わたしの好きな言葉の一つです。

平成二十二年度で、第一期区地域福祉計画が終了し、二十三年度は、第二期四年間の実施へと受け継がれていく年となりました。地域福祉の推進には、区切りがあるわけではありません。要望・改善を発展させながら継続的かつ循環的に推進させていかなければならぬと思つていています。その道程は、「三歩進んで、二歩下がる」という遅々たる歩みかもしれません。まさしく「完は序なり」の連続だと考えています。

最近、印象に残った新聞記事がいくつありました。最初は、「高齢者が敬老の日に子どもや孫にして欲しいものは（22・9・17、朝日・

電通総研調査）の問いに「電話をしてくれる二十・六%」、「家を訪問してくれる十九・八%」が上位でした。

世界の人々が共有したとき地球上には平和が訪れるのではと考えています。

最後に、「高齢者の住まい、暮ら

く「顔を合わせる・話し合う」ことに幸せを求めていることが分かります。人は、話すことによって互いの絆を深め、心にゆとりと喜びを感じて生きているからです。「幸」とは、最も身近なところにあるのです。

次は、「老人にはもたつく権利がある（22・12・11朝日）」の投書には賛否両論がありました。「例えばスーパーのレジで合計金額を知らされながら、やおらバッグの中から財布を探し始める人がいます。並んでいる間に準備しようとしているのです。それに対する意見が『『待てない』『我慢ができない』人々の社会が何かにつけて切れやすい世の中を作り上げている気がします。』という意見でした。ここには、「相手の立場に立つて考える」という人間理解の基本的なアイデンティティの問題が含まれていると思いました。世界に起きている紛争、対立、いがみ合いも「相手の立場に立つて」考えるこの一言ができないからでしょう。これを全

て31千葉日報によると「親しく付き合っている十七・六%」、「あいさつ程度三十八・五%」に大変ショックを受けました。十七・六%の意味するものは何でしょうか。地域住民の連帯意識が希薄になつたせいでしょうか。それとも社会の閉塞感からでしょうか。そんなことではあります。本来、人間は、喜怒哀楽を共にしたいと思っているのです。絆を作りたいと思っているのです。それに踏み込んで行けないのが現状なのです。打破していきましょう。

副題に『遣』という言葉を掲げました。『遣』は、「つかわす・いかせる・与える・おくる・恩恵を与える」等の意味があります。人と人の関係を表す良い言葉です。「遣唐使」は、日本の政治・文化・社会に大きな役割を果たしました。わたしたちは緑区の「遣唐使ならぬ遣地域使」として福祉計画の推進に努力したいと思つています。

椎名地区

子どもは地域のみんなで
育てています

高齢者と子どもと

一緒に楽しく遊びました

一月二十日、椎名小六年生と高齢者とは、「椎名ふれあい食事会」の場で、「百人一首」、「かるた」、「お手玉」、「あやとり」などの昔遊びをしながら、たのしく「ふれあう」ことができました。

また、二月二十二日には、椎名小学校に地域の人を招いた、「招待食事会」を開きました。お年寄りにやさしい「献立」やゲームや歌などを、六年生みんなで考えて決めました。

高齢者からは、物が少なかつた頃の食べ物の話や昔の生活ぶりなどの話があり、子ども達も熱心に聴いていました。「もつたいない」、「助け合い」、「思いやり」の気持ちを引き継いでもらいたいとの思いを込めて話していました。

正しく書けたかな？



学校のテストとは違い、「あいさつ」で始まり、「あいさつ」で終わる礼儀も学びつつ、ゲーム感覚でたのしく語り合いながら、「書き順」、「はね」、「はらい」、「および「送りがな」など正しい漢字の書き方と一緒に勉強しています。

志達は、毎水曜日、授業前の十五分間、椎名小学校で全児童の学力向上と「ふれあい」を目的とした「漢字パワーアップ授業」として学習の支援を行っています。

地域の福祉ボランティア有志達は、毎水曜日、授業前の十五分間、椎名小学校で全児童の学力向上と「ふれあい」を目的とした「漢字パワーアップ授業」として学習の支援を行っています。

「バザー」には、地域性に富んだ農産品をはじめ、地域住民の得意の品が多数提供されています。買い物も老若男女、多くの人が集まり、「お久し振り」、「お元気?」など会話も飛び交い盛況でした。

「ゲートボール大会」では、チームが参加、優勝を目指してチーム一丸となって、競い合う姿には、「老け込んではいませんよ」との気概が見られました。

当日、健康相談会も行われました。福祉センター健康課（三橋さん・中山さん）に来ていただき、「血圧測定・糖尿病予防・生活習慣病について」のご指導がありました。四十名の方々が相談に来て、なごやかな雰囲気の中で終りました。健康に感謝の一日でした。

私も、あなたも福祉活動・

おゆみ野地区

「ぼくらのタスキが
まちをつなぐ！」

一月三十日、「第三回おゆみ野四季の道駅伝」が開催されました。

この冬一番とも思われる寒さのなか、今年は参加者が増えて、百二十三チーム、約六百名の子どもたちが、「おゆみ野四季の道」を元気いっぱい走ってタスキをつなぎました。

回を重ねることで、小学生・中学生選手と高校生・地域ボランティアとのきずなが更に深まり、おゆみ野のまち全体が大きな輪でつながったと言つても過言ではないでしよう。

たくさんの感動をありがとう！

四月三日（日）午前十時
鎌取コミュニティセンター
円形広場から遊歩道
さくらさくさくウォーキングを開催します！

誉田地区

ふれあい・いきいきサロン —歌声喫茶—について

平成二十年七月に第一回を開催し、今年は四年目に入ります。毎回約三十人程が集まり、ボランティアの方々によるキーボードやウクレレの演奏に合わせながら、民謡・童謡・歌謡曲・ロシア民謡等々大きな声で元気よく、そして、楽しく歌っています。前回より、津軽三味線の奏者として熱海からボランティアの方に来ていただ

っています。お茶と茶菓子などを口になると、お茶と茶菓子などで休憩になります。—歌声喫茶—なので休憩にしながら隣の人達との楽しい世間話しと変わり、歌声と違った花が咲きます。本当に心が豊かになる充実した—歌声喫茶—です。（誉田ニュータウン自治会 寄稿）

天空高く炎となって舞い上がります



伝統行事火祭り「どんど焼き」
一月八日（土）、辺田町平山小学校下の広場で、小正月の伝統行事火祭り、「どんど焼き」が地域の人々を集めて盛大に行われました。

この大会には、土氣・越智・土氣南・大椎の四中学校区十校（小学校六校・中学校四校）の小学四年生から中学二年生までが参加しました。

特に今年は昨年の参加人数を上回り、大会史上最多の八百七八名の小中学生が参加しました。絶好のコンディションの中、三つの学年で新記録更新、三大会優勝の特別賞を四名が受賞するなど、記録づくりの大会となりました。

お知らせ

～聴覚障害者への理解、手話のできる市民を増やしていくこう～

- 映画「ゆずり葉」上映運動
- We Love コミュニケーションパンフ普及と署名運動

行政や学校等を通して呼びかけ、従来の手話講習会とも並行して、手話や聴覚障害者に理解のある市民を少しでも増やしていくこう。

そのためには、手話サークルや手話通訳者とともに手をつないで歩もう。

♪あ～ ♪ルルル～ ♪ららら～



土氣中学校区マラソン大会

一月十五日（土）、第二十八回土氣地区小中学校マラソン大会が、創造の杜トリムコースで開催されました。

この大会には、土氣・越智・土氣南・大椎の四中学校区十校（小学校六校・中学校四校）の小学四年生から中学二年生までが参加しました。

寒さの厳しい中、ファイト！！



中学生との意見交換会を実施！！

平成22年12月11日（土）あすみが丘プラザにて行われました、第4回緑区地域福祉計画推進協議会において、土氣、土氣南、大椎中学校の生徒さんに参加していただき、第二期緑区地域福祉計画について話し合いました。

高齢者や障害者の方と話しえて、一緒に接する機会を持ちたいと思いました。

学校でもっと高齢者や障害者との交流があれば良いと思いました。また、手話を教えてもらったり、筆談で話しができれば良いと思いました。

横断歩道でただ手を引くだけが全てではないと思いました。また、電話で見守りをするだけでなく、手紙交換で交流することも一つの方法だと思いました。

老人ホームなどの施設に行って中学生が、プレゼント交換をしたりして、ふれあうような機会があれば良いと思いました。



◆◇◆編集後記◆◇◆

最初のフォーラムから委員となつてもう何年の月日がたつのでしょうか。4月からは、第2期計画に移行します。福祉というものは、カメのようにゆっくりと、でも確実な歩みを信じたいですね！

ご意見、お待ちしています。

（T・T）

掃除をする機会があまりないので、地域の人の声を聞いて、地域の掃除について考えてみたいと思いました。

もしかしたら、何も知らない人が、障害者を避けることは仕方のないことかも知れません。だから、そのような人を理解する場や学校での授業があつたらよいと思います。